

ID およびアクセス管理プラットフォーム 購入者ガイド

ソフトウェア プロバイダーと製品の査定

ソフトウェア
プロバイダー
レポート

***ISG** Research

Licensed by:





要点

ID およびアクセス管理 (IAM) は、ディレクトリ中心の管理から、クラウド、ハイブリッド、パートナー エコシステムのすべての環境でアクセスを統制するための戦略的なセキュリティ制御層へと進化しました。アイデンティティ ライフサイクルの管理、最小権限の原則に基づくアクセス、ゼロトラスト セキュリティ モデルのサポートのために、IAM を利用する企業が増加しています。AI、適応型認証、自動化は、IAM によるアイデンティティ 起因のリスクの低減効果を高めるとともに、運用効率とユーザー エクスペリエンスも向上させます。

ソフトウェア プロバイダー サマリー

「ID およびアクセス管理プラットフォームの ISG 購入者ガイド™」では、アイデンティティ ライフサイクル管理、認証、認可、およびアクセス ガバナンスに対応した製品を提供する 31 社のソフトウェア プロバイダーを評価しています。本調査では、総合評価における上位 3 社である Microsoft、AWS、Oracle をリーダーとして選出しました。各プロバイダーは、「製品エクスペリエンス」と「カスタマー エクスペリエンス」における加重成績を使用して分類され、ISG のクアドラントに配置されました。AWS、CyberArk、Google Cloud、IBM、Keeper Security、ManageEngine、Microsoft、Okta、One Identity、Oracle、SailPoint、SAP、および SecureAuth は「模範的」と評価され、BeyondTrust、Delinea、および Ping Identity は「革新的」と評価されました。Broadcom、JumpCloud、OpenText、および Thales は「信頼」と評価され、Andromeda Security、Apono、Beyond Identity、Entrust、Eviden、Fortinet、Jisc、Keycloak、Okta、ObserveID、RSA、および Twine Security は「優秀」と評価されました。

製品エクスペリエンスに関する分析

評価の 80% を占める製品エクスペリエンスでは、「機能性」(50%) と「プラットフォーム」(30%) に着目しました。これには、適応性、管理のしやすさ、信頼性、使いやすさが含まれます。Microsoft、AWS、Okta は、このカテゴリにおいて最高の成績を示し、リーダーに選出されました。アクセス管理、認証、ガバナンス、統合機能に優れていたことが要因です。リーダーに選出された各社は、分散型アイデンティティ、クラウドおよびハイブリッドの運用環境において、エンタープライズレベルのプラットフォーム機能を提供できることを実証しました。

カスタマー エクスペリエンスの価値

評価の 20% を占めるカスタマー エクスペリエンスでは、主に妥当性と TCO/ROI に注目しました。Microsoft、IBM、Oracle が、このカテゴリにおけるリーダーに選出され、顧客に対する強力な取り組みと、顧客のニーズへの明確な献身を示しました。優れた成績が得られなかったプロバイダーの多くは、顧客の成功事例を実証するための情報が不十分で、カスタマー エクスペリエンスへの取り組みを明確に示すことができず、TCO/ROI によって具体的な価値を伝えることができていませんでした。



戦略的推奨事項

企業は、分散環境全体において、統合アイデンティティ ライフサイクル管理、強力な認証、および一貫性のあるアクセス ガバナンスを提供できる能力に基づいて、IAM プラットフォームを評価しなければなりません。評価にあたっては、適応型アクセス制御、多要素認証、API およびコネクタの統合、監査可能性、および拡張性を重視する必要があります。さらに、ゼロ トラストの原則を適用しながら、セキュリティと運用効率を向上させる AI を活用したリスク分析やライフサイクルの自動化についても評価する必要があります。



ID およびアクセス管理プラットフォーム

デジタル運用がクラウド、ハイブリッド、パートナー エコシステムに拡大しても、ID およびアクセス管理が企業のサイバーセキュリティの中心であることに変わりはありません。セキュリティ責任者は、運用効率とユーザーの生産性を維持しながら、機密性の高いシステムへのアクセスを制御しなければなりません。ISG Research は、2028 年までに 70% 以上の企業が、アイデンティティ起因の攻撃リスクを軽減し、コンプライアンスを向上させるための主な制御点として IAM プラットフォームを重点的に活用するようになる予測をしています。

ISG Research は、ID およびアクセス管理 (IAM) を、個人やシステムに対し、企業リソースに対する適切なアクセス権を必要とときにのみ付与するための、ポリシー、プロセス、およびソフトウェアのフレームワークであると定義しています。IAM は、最小権限の原則を適用しながら、あらゆる環境におけるアイデンティティ ライフサイクル管理、認証、および認可を制御します。

IAM には、ユーザーのプロビジョニングおよびプロビジョニング解除、シングル サインオン、多要素認証、ロールベースのアクセス制御などの機能があります。また、総合的なセキュリティ システムと統合することで、アクセス アクティビティを可視化し、従業員、外注業者、サードパーティのユーザーなど、さまざまなユーザーに対する監査およびコンプライアンス要件に対応します。

このカテゴリは元々、オンプレミス システム内のユーザー アカウントの管理を主な目的とした、ディレクトリ中心の機能でした。初期のソフトウェアでは、企業ディレクトリに関連する認証や基本的なアクセス制御に重点が置かれ、アプリケーションや環境間の統合は限定的でした。

IAM は、クラウドファーストでアイデンティティ中心のセキュリティ分野へと進化していきました。現在の IAM プラットフォームは、分散型アーキテクチャ、アプリケーション プログラミング インターフェイス (API) 主導の統合、Software-as-a-Service (SaaS) やハイブリッド環境にわたるアイデンティティ フェデレーションに対応しています。ゼロトラスト セキュリティ モデルへの移行に伴い、IAM は単なる管理機能から、アクセスを許可する前にアイデンティティ、コンテキスト、リスクを継続的に評価する戦略的な制御層へと進化しました。

非人間アイデンティティ (NHI) 管理の登場により、これらの原則は人間のユーザーだけでなく、アプリケーション、サービス、ワークロード、デバイス、そして自律化の進む AI エージェントにも適用されるようになりました。NHI は IAM を補完するものであり、人間との直接的なやり取りなしに動作するアイデンティティに対してアイデンティティ ガバナンスとアクセス制御を適用すると同時に、検出、所有権、認証情報管理、ライフサイクルの自動化といった、NHI 特有の要件にも対応します。

サイバーセキュリティ

市場の予測

2028 年までに 70% 以上の企業が、アイデンティティ起因の攻撃リスクを軽減し、コンプライアンスを向上させるための主な制御点として IAM プラットフォームを重点的に活用するようになる予測されます。

Jeff Orr
テクノロジー リサーチ担当リサーチ
ディレクター



ISG Research



企業は、アイデンティティに基づく脅威への曝露を低減すると同時に、さまざまな環境でユーザーが円滑にアクセスできるようにする IAM アプローチを必要としています。たとえば、運用を滞らせることなく、アイデンティティを大規模に管理し、アクセス ポリシーを一貫して適用し、ユーザー アクティビティを常に可視化できる必要があります。

セキュリティと IT のリーダーは、規制要件に準拠し、監査への準備を支援する IAM 機能も必要としています。組織のエコシステムが拡大するに伴い、非従業員や非人間のアイデンティティにつ

“

組織のエコシステムが拡大するに伴い、非従業員や非人間のアイデンティティについても、従業員と同じ厳密さで管理する必要が生じています。そのうえ、マシン主導のアクセス特有の規模、速度、ライフサイクルの要件も考慮しなければなりません。

いても、従業員と同じ厳密さで管理する必要が生じています。そのうえ、マシン主導のアクセス特有の規模、速度、ライフサイクルの要件も考慮しなければなりません。

効果的な IAM ソフトウェアは、強力な認証と適応型アクセス制御を通じて、統合されたアイデンティティ ライフサイクル管理を実現できるものである必要があります。たとえば、シングル サインオン、多要素認証、ユーザーの行動やコンテキストのシグナルを取り入れたポリシーベースの認可への対応が必要です。アプリケーションやインフラストラクチャ全体で IAM を一貫して実施するには、API や事前構築済みのコネクタによる統合が不可欠です。

優れた IAM プラットフォームには、コンプライアンスとリスク管理をサポートするための、堅牢な監査、レポート、ガバナンス機能も備わっています。セルフサービス

機能や合理化されたワークフローを実現できれば、管理オーバーヘッドを低減しながらユーザーエクスペリエンスを向上させることができるため、使いやすさも重要な要件です。分断されることなく、ハイブリッド環境やマルチクラウド環境で運用できることは、今や最低限の要件です。

AI は、ユーザーの行動、アクセス パターン、リスク シグナルを自動的に分析して、IAM 運用を改善します。機械学習モデルは、場所、デバイス、アクティビティなどのコンテキスト依存の要因を評価してアクセスに関する決定を動的に調整することで、適応型認証を実現します。AI を活用した自動化により、プロビジョニングおよびプロビジョニング解除プロセスが合理化され、手動の作業が減少し、ミスも最小限に抑えられます。セキュリティ チームにとっては、異常なアクセス アクティビティ検出の迅速化とポリシー適用の精度向上によって、運用効率を高めながら保護を強化できるというメリットがあります。

IAM は、セキュリティ スタックの別々のレイヤーで機能する制御ではなく、アクセスの主要な制御プレーンとして機能するアイデンティティを中心としている点で、エンドポイント セキュリティや脅威検知といった関連分野とは異なります。IAM を利用すれば、分散化の進む環境全体で、一貫したアイデンティティ ガバナンスを確立し、アクセス ポリシーを適用して、認証を管理できます。

企業は、ゼロ トラストの原則に準拠し、既存のセキュリティ エコシステムと統合され、アクセス制御と運用効率を大幅に改善する IAM プラットフォームを重点的に活用する必要があります。組



組織がリスクを低減し、進化するデジタル ビジネス要件に対応するためには、プロバイダーのスケラビリティ、使いやすさ、ガバナンスに関する能力を評価すると役立ちます。

「2026 年版 ID およびアクセス管理プラットフォームの ISG 購入者ガイド™」では、主要な機能分野についてソフトウェア プロバイダーを評価しています。これには、アクセス管理とガバナンス、AI および機械学習の活用、API およびアプリケーション コネクタの統合、監査とレポート、アイデンティティの検証、多要素認証、ロールベースのアクセス制御、セルフサービス機能、ユーザー プロビジョニング、マネージド サービス環境への移行があります。本調査の査定対象となったソフトウェア プロバイダーは、以下のとおりです。Andromeda Security、Apono、AWS、Beyond Identity、BeyondTrust、Broadcom、CyberArk、Delinea、Entrust、Eviden、Fortinet、Google Cloud、IBM、JumpCloud、Keeper Security、Keycloak、ManageEngine、Microsoft、Okta、One Identity、OpenAthens、OpenText、Oracle、Ping Identity、RSA、SailPoint Technologies、SAP、SecureAuth、Thales、Twine Security。



調査結果

本調査の評価対象であるソフトウェア プロバイダーと製品は、製品エクスペリエンスとカスタマー エクスペリエンスを提供していますが、すべての機能がすべての企業にとって同等の価値をもたらすわけではなく、関連するビジネス プロセスやユース ケースをサポートするために必要というわけでもありません。むしろ、製品の機能が多すぎると不必要に複雑になり、企業に悪影響をもたらす可能性があります。しかし、より多くの機能を包括的に備えていることが重要であり、企業の要件を満たすことができると判断する場合もあり得ます。

顧客がソフトウェア プロバイダーと効果的な関係を築くことは、投資から成果を得るうえで不可欠です。満足のいく結果を出し、長期にわたって成功を収めるためには、カスタマー エクスペリエンス全般とエンゲージメント ライフサイクル全体が重要な役割を果たします。最高顧客責任者のような、顧客対応の責任者を設けているプロバイダーの多くは、こうした関係により深く投資し、期待される TCO や ROI に沿って顧客の成果達成に優先的に取り組んでいます。このような顧客の成功に対する取り組みを、プロバイダーのウェブサイト、購入プロセス、カスタマー ジャーニーのすべてにおいて明確に示すことも同じくらい重要です。

全カテゴリにおけるソフトウェア プロバイダーの総合評価

調査の結果、Microsoft が最も優秀な成績を収め、その後に AWS と Oracle が続きます。各カテゴリでは、上位 3 社のプロバイダーがリーダーとして選定されます。Microsoft は 5 つのカテゴリでリーダーに選ばれました。AWS は 3 つのカテゴリ、Okta と Oracle は 2 つのカテゴリ、IBM、Ping Identity、SecureAuth は 1 つのカテゴリでリーダーに選ばれています。

以下のクアドラント図では、「製品エクスペリエンス」の評価を x 軸、「カスタマー エクスペリエンス」の評価を y 軸に示し、ソフトウェア プロバイダーを視覚的に分類しています。各軸には 2 つの製品カテゴリがまとめて示されており、「製品エクスペリエンス」の加重成績が中央値より大きいプロバイダーは、右側に配置されています。「カスタマーエクスペリエンス」カテゴリの成績と重み付けにより、y 軸での配置が決まります。つまり、このグラフで右上に位置しているソフトウェア プロバイダーのほうが、左下に位置しているソフトウェア プロバイダーよりも優れています。

本調査では、ソフトウェア プロバイダーを「信頼」、「模範的」、「優秀」、「革新的」という 4 つの総合評価カテゴリのいずれかに分類しています。図における位置は、ソフトウェア プロバイ

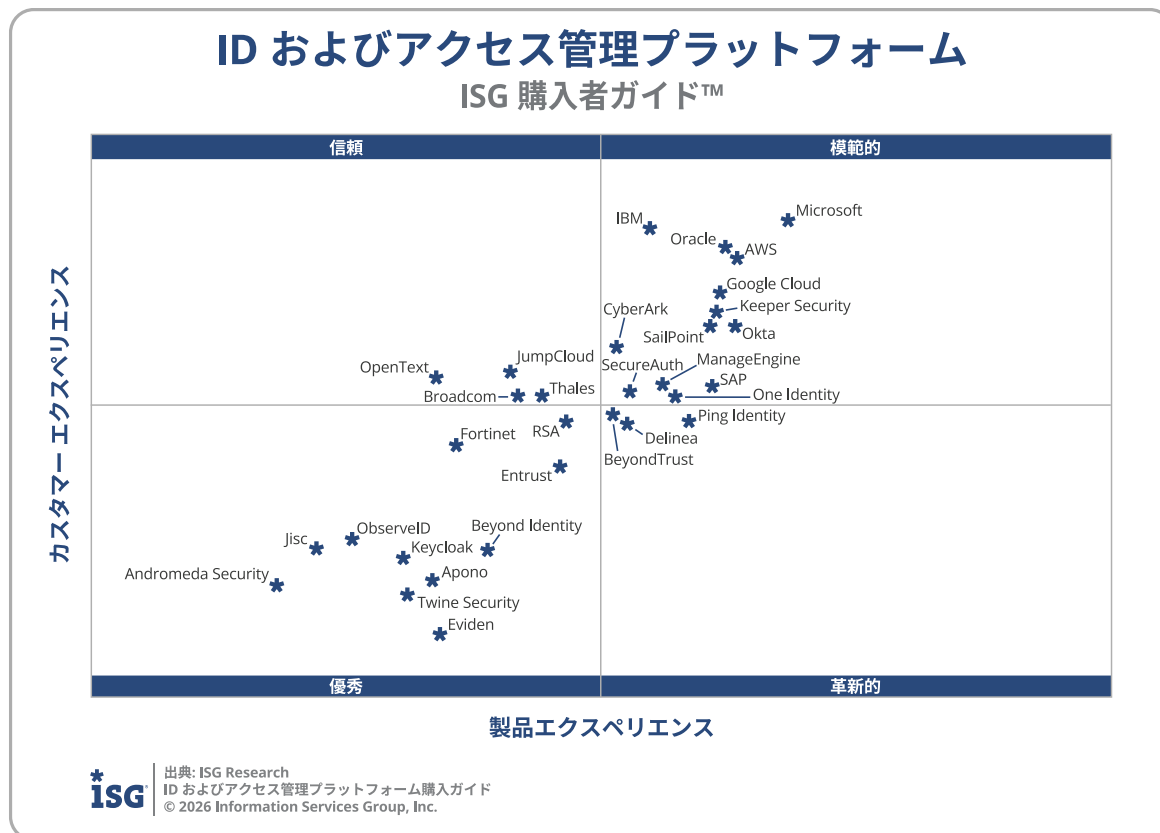
IAM プラットフォーム 総合

プロバイダー	評価	成績
Microsoft	A	リーダー 89.6%
AWS	A-	リーダー 85.9%
Oracle	A-	リーダー 85.4%
Okta	A-	84.5%
Google Cloud	A-	84.2%
Keeper Security	A-	83.6%
SailPoint	A-	83.3%
SAP	A-	81.8%
IBM	A-	81.4%
Ping Identity	B++	80.1%
One Identity	B++	79.5%
ManageEngine	B++	79.0%
SecureAuth	B++	77.3%
CyberArk	B++	77.2%
Delinea	B++	76.4%
BeyondTrust	B++	75.8%
RSA	B+	73.0%
Thales	B+	72.0%
Entrust	B+	71.8%
JumpCloud	B+	70.8%
Broadcom	B+	70.6%
OpenText	B	66.2%
Fortinet	B	66.2%
Beyond Identity	B	65.9%
Apono	B-	62.3%
Eviden	B-	61.3%
Keycloak	B-	61.1%
Twine Security	B-	60.5%
ObserveID	B-	58.4%
Jisc	C++	56.2%
Andromeda Security	C++	53.3%

出典: ISG Research
ID およびアクセス管理プラットフォーム購入者ガイド
© 2026 Information Services Group, Inc.



ダーが、「製品エクスペリエンス」と「カスタマー エクスペリエンス」の要件をどの満たしているかを重み付けして表したものになります。



模範的: この評価 (右上) は、「製品エクスペリエンス」と「カスタマー エクスペリエンス」両方の要件において、中央値より高い成績を示したプロバイダーに与えられます。「模範的」と評価されたプロバイダーは、AWS、CyberArk、Google Cloud、IBM、Keeper Security、ManageEngine、Microsoft、Okta、One Identity、Oracle、SailPoint、SAP、SecureAuth です。

革新的: この評価 (右下) は、「製品エクスペリエンス」では中央値より高い成績を示したが、「カスタマー エクスペリエンス」ではそうではなかったプロバイダーに与えられます。「革新的」と評価されたプロバイダーは、BeyondTrust、Delinea、Ping Identity です。

信頼: この評価 (左上) は、「カスタマー エクスペリエンス」では中央値より高い成績を示したが、「製品エクスペリエンス」ではそうではなかったプロバイダーに与えられます。「信頼」と評価されたプロバイダーは、Broadcom、JumpCloud、OpenText、および Thales です。



優秀: この評価 (左下) は、「カスタマー エクスペリエンス」と「顧客エクスペリエンス」のいずれでも中央値を上回らなかったプロバイダーに与えられます。「優秀」と評価されたプロバイダーは、Andromeda Security、Apono、Beyond Identity、Entrust、Eviden、Fortinet、Jisc、Keycloak、ObservableID、RSA、および Twine Security です。

企業の皆様には、この評価や順位はプロバイダーの価値を表す唯一の指標ではなく、その製品があらゆる企業に適していることを示すものでもないことをご理解いただいたうえで、貴社自身の評価の補助として本調査結果をご利用いただくようお願いいたします。

製品エクスペリエンス

企業のニーズに対応できる製品を調査する際には、具体的な機能や製品の基盤となるプラットフォームを評価し、あらゆる面から調べる必要があります。本調査における「製品エクスペリエンス」の評価では、オンボーディング、構成、運用、使用、保守のライフサイクルを検証しています。プロバイダーは完全にその製品について評価されるのではなく、市場での動向や将来の展望を評価されることが多いです。

「製品エクスペリエンス」は、総合評価の 80% を占めます。「製品エクスペリエンス」内のサブカテゴリの重みは、「機能性」が 50%、「プラットフォーム」が 30% です。「製品エクスペリエンス」のリーダーには、Microsoft、AWS、Okta が選出されました。

IAM プラットフォーム

製品エクスペリエンス

プロバイダー	評価	成績
Microsoft	A	リーダー 71.3%
AWS	A-	リーダー 68.4%
Okta	A-	リーダー 68.2%
Oracle	A-	67.7%
Google Cloud	A-	67.3%
Keeper Security	A-	67.1%
SailPoint	A-	66.9%
SAP	A-	66.7%
Ping Identity	A-	65.6%
One Identity	B++	64.6%
ManageEngine	B++	63.8%
IBM	B++	63.3%
SecureAuth	B++	62.2%
Delinea	B++	62.0%
CyberArk	B++	61.4%
BeyondTrust	B++	61.1%
RSA	B+	58.5%
Entrust	B+	58.1%
Thales	B+	57.1%
Broadcom	B+	55.7%
JumpCloud	B+	55.3%
Beyond Identity	B	53.8%
Fortinet	B	52.1%
Eviden	B	51.2%
OpenText	B	51.0%
Apono	B	50.8%
Twine Security	B-	49.3%
Keycloak	B-	49.1%
ObservableID	B-	46.1%
Jisc	C++	44.1%
Andromeda Security	C++	41.9%



出典: ISG Research
ID およびアクセス管理プラットフォーム購入ガイド
© 2026 Information Services Group, Inc.



製品の機能性

「機能性」の基準では、さまざまな IAM 機能について製品と機能を評価しています。これには、アクセス管理とガバナンス、AI および機械学習の使用、API およびアプリケーション コネクタの統合、監査とレポート、アイデンティティの検証、多要素認証、ロールベースのアクセス制御、セルフサービス機能、ユーザー プロビジョニング、マネージドサービス環境への移行があります。

この評価は、14 の分野における 39 のファンクション ポイントについて行われ、総合評価における重みは 50% です。このカテゴリのリーダーは、Microsoft、Okta、および Ping Identity です。

本評価の「機能性」要素は、企業の評価の枠組みを提供します。本購入者ガイドのすべての要件に対応する、幅広さと深さを兼ね備えたソフトウェア プロバイダーに高い評価が与えられます。

IAM プラットフォーム

機能性

プロバイダー	評価	成績
Microsoft	A	リーダー 93.5%
Okta	A	リーダー 91.4%
Ping Identity	A	リーダー 90.7%
Oracle	A	89.7%
AWS	A	87.7%
SailPoint	A	87.7%
Google Cloud	A-	87.3%
Keeper Security	A-	85.4%
IBM	A-	84.9%
SAP	A-	84.9%
Entrust	A-	84.7%
CyberArk	A-	84.6%
ManageEngine	A-	83.1%
One Identity	A-	81.6%
BeyondTrust	A-	81.5%
Delinea	B++	78.7%
RSA	B+	74.4%
Thales	B+	74.3%
JumpCloud	B+	73.9%
SecureAuth	B+	73.3%
Beyond Identity	B+	72.7%
Broadcom	B+	71.5%
Twine Security	B+	71.4%
Eviden	B+	71.4%
Fortinet	B	67.4%
Keycloak	B	66.7%
Apono	B-	61.5%
OpenText	B-	59.4%
ObserveID	C++	53.5%
Andromeda Security	C++	50.7%
Jisc	C+	49.4%



出典: ISG Research
ID およびアクセス管理プラットフォーム購入ガイド
© 2026 Information Services Group, Inc.



製品のプラットフォーム

ISG 購入者ガイド™ の「プラットフォーム」カテゴリでは、プラットフォームの基盤となるコンポーネントを評価し、ソフトウェア製品が企業のビジネスおよび IT に関するニーズをどの程度満たしているかを検証しています。このカテゴリでは、適応性、管理のしやすさ、信頼性、使いやすさに関する具体的な要件を検証します。

適応性は、企業の環境に合わせて製品を構成し、組み込むことができるかを評価し、管理のしやすさでは、ガバナンス、セキュリティ、コンプライアンスに着目します。信頼性は、複数の環境にわたるパフォーマンスとスケーラビリティについて評価し、使いやすさは、設計、AI の活用、プロバイダーによる継続的な投資によって、直観的で使いやすい製品となっているかを評価します。

ISG Research は、あらゆるプラットフォーム機能を評価するために、5つの分野における 16 のファンクション ポイントを評価しました。本調査では、プラットフォームを総合評価の 30% として重み付けしています。このカテゴリのリーダーは、SecureAuth、Microsoft、および AWS です。

「プラットフォーム」は、ソフトウェア プロバイダーの製品アーキテクチャの堅牢さと回復力を示す、非常に重要な評価カテゴリです。プラットフォームが適切に設計されていれば、安全かつ各種規制に準拠した運用、確実なスケーラビリティと稼働率、そして幅広いユーザー層が直観的に利用できる、統一された操作性が得られます。またこのカテゴリは、企業のニーズに対応できる柔軟性を保ちながら、さまざまな導入モデルをサポートすることができるプロバイダーの能力も表しています。

「プラットフォーム」カテゴリで最高の成績を収めたソフトウェア プロバイダーは、適応性、管理のしやすさ、信頼性、使いやすさを実現し、幅広いビジネスおよび IT のニーズを深く満たすことができます。一方、成績が優れなかったプロバイダーは、これらの分野のうち 1 つ以上に問題があったか、一貫性のある企業レベルの対応を示すことができませんでした。

IAM プラットフォーム プラットフォーム

プロバイダー	評価	成績
SecureAuth	A-	リーダー 85.2%
Microsoft	A-	リーダー 82.0%
AWS	A-	リーダー 81.6%
Keeper Security	A-	81.5%
SAP	B++	80.9%
One Identity	B++	79.2%
Google Cloud	B++	79.0%
SailPoint	B++	76.7%
Oracle	B++	76.0%
Delinea	B++	75.3%
Okta	B++	75.1%
ManageEngine	B+	74.2%
OpenText	B+	70.9%
RSA	B+	70.9%
IBM	B+	69.4%
BeyondTrust	B	67.8%
Ping Identity	B	67.4%
Apono	B	66.7%
Broadcom	B	66.6%
Thales	B	66.5%
ObservelD	B	64.6%
Jisc	B	64.5%
CyberArk	B	63.6%
Fortinet	B-	61.5%
JumpCloud	B-	61.3%
Beyond Identity	B-	58.1%
Andromeda Security	C++	54.9%
Keycloak	C++	52.7%
Entrust	C++	52.6%
Eviden	C++	51.7%
Twine Security	C+	45.5%



出典: ISG Research
ID およびアクセス管理プラットフォーム購入ガイド
© 2026 Information Services Group, Inc.



カスタマー エクスペリエンス

製品とテクノロジーを確実に成功に導くには、ソフトウェア プロバイダーと顧客の関係を重視することが不可欠です。ソフトウェア プロバイダーとの連携を満足のいくものにするためには、カスタマー エクスペリエンスと、企業がそのプロバイダーと提携する際のカスタマー ライフサイクル全般の評価が不可欠となります。ISG 購入者ガイド™ では、ソフトウェア プロバイダーの顧客へのコミットメント、実行可能性、顧客の成果、販売および導入支援、製品ロードマップ、パートナーおよびサポート サービスについて評価しています。「カスタマー エクスペリエンス」カテゴリではさらに、TCO/ROI、ソフトウェア プロバイダーが製品の総合的な価値、コスト、メリットをどの程度明確に示すことができているかも評価しており、これらの要素を評価するために利用可能なツールやリソースも含まれます。

「カスタマー エクスペリエンス」の評価結果は、総合指数 100% のうち 20% を占め、基になるプロバイダーの妥当性および TCO/ROI 要件を表します。これらの要件は、ソフトウェア プロバイダーと顧客の関係への取り組みと価値の枠組みに関連するものです。

「カスタマー エクスペリエンス」カテゴリで最高の評価を得たソフトウェア プロバイダーは、Microsoft、IBM、Oracle です。これらのカテゴリにおけるリーダーは、顧客のニーズに対する取り組みと献身を最も明確に伝えています。

このカテゴリで優れた評価が得られなかったソフトウェア プロバイダーは、成功事例を紹介したり、カスタマー エクスペリエンスへの取り組みを詳しく説明するために十分な情報を提供できていませんでした。ソフトウェア プロバイダーとの提携には継続的な投資が必要となるため、包括的な評価には、プロバイダーによるカスタマー エクスペリエンスの検証を含める必要があります。

IAM プラットフォーム カスタマー エクスペリエンス

プロバイダー	評価	成績
Microsoft	A	リーダー 18.3%
IBM	A	リーダー 18.1%
Oracle	A	リーダー 17.8%
AWS	A	17.6%
Google Cloud	A-	16.9%
Keeper Security	A-	16.5%
SailPoint	A-	16.4%
Okta	A-	16.3%
CyberArk	B++	15.8%
JumpCloud	B++	15.4%
OpenText	B++	15.3%
ManageEngine	B++	15.2%
SAP	B++	15.1%
SecureAuth	B++	15.1%
One Identity	B+	15.0%
Thales	B+	14.9%
Broadcom	B+	14.9%
BeyondTrust	B+	14.7%
RSA	B+	14.5%
Ping Identity	B+	14.5%
Delinea	B+	14.5%
Fortinet	B+	14.1%
Entrust	B	13.7%
ObservelD	B-	12.3%
Jisc	B-	12.1%
Beyond Identity	B-	12.1%
Keycloak	B-	11.9%
Apono	B-	11.5%
Andromeda Security	B-	11.4%
Twine Security	C++	11.2%
Eviden	C++	10.1%



出典: ISG Research
ID およびアクセス管理プラットフォーム購入ガイド
© 2026 Information Services Group, Inc.



Keeper Security

会社と製品プロファイル

KeeperPAM (2026 年 6 月リリース)

「KeeperPAM は、サーバー、ウェブ アプリケーション、データベース、ワークロードへのアクセスを管理します。専門知識がなくても利用できるクラウド ネイティブなプラットフォームであり、企業のパスワード管理、シークレット管理、接続管理、ゼロ トラストのネットワーク アクセス、リモート ブラウザ分離のすべての機能が統合されています。これらの機能を統合インターフェイスから利用できます。」 - Keeper Security

まとめ

当社の分析では、Keeper Security は「模範的」として分類され、成績は 83.0% で総合評価は A マイナスとなっています。Keeper Security が優れた総合評価を得た理由として、「製品エクスペリエンス」での成績が 83.1% で A マイナスの評価を受けたことがあります。Keeper Security は「カスタマー エクスペリエンス」においても 82.7% の成績で A マイナスの評価を獲得しています。

強み

KeeperPAM プラットフォームは、「プラットフォーム」および「カスタマー エクスペリエンス」で強みを示しました。「プラットフォーム」では、パフォーマンスとスケーラビリティを管理するための構成可能性と機能性において好成績をあげました。「カスタマー エクスペリエンス」の機能性では、従業員や見込み客が TCO/ROI を算出できる点が高く評価されました。

課題

Keeper Security は、規模と成長、顧客の定着率および多様化によって財務面での持続可能性を実証できれば、その立場をさらに強化できると考えられます。また、アプリ市場に対し、より業界に特化したコネクタやパートナー アプリケーションの例を示し、定期的に最新情報を公開することで、機能面を強化できる可能性があります。

IAM プラットフォーム

Keeper Security

模範的なプロバイダー

カテゴリ	成績	評価
総合	83.0%	A-
製品	83.1%	A-
機能性	85.4%	A-
プラットフォーム	81.5%	A-
カスタマー	82.7%	A-



出典: ISG Research
ID およびアクセス管理プラットフォーム購入者ガイド
© 2026 Information Services Group, Inc.



ソフトウェア プロバイダーの参加

「2026 年版 ID およびアクセス管理プラットフォームの ISG 購入者ガイド™」へのソフトウェア プロバイダーの参加要件は、財務的および倫理的に良好な状態にあること、年間収益または予測収益が 1 億ドル以上であることが独立した情報源によって検証されていること、北米、EU、英国、およびアジア太平洋地域のうち、2 つ以上の地域で製品を販売し、サポートを提供していることです。また、関連事業部門の主要収益源がソフトウェアに関連するものであること、過去 12 か月で少なくとも 1 回、ソフトウェアのメジャー リリースを行っていることも要件となっています。

IAM ソフトウェアは、ユーザーのアイデンティティとアクセス権を管理し、高度な認証とロールベースの制御を通じて、適切なアクセス、規制への準拠、セキュリティの強化を実現します。

この調査において、ソフトウェア プロバイダーのパッケージ化や価格設定の詳細は評価に反映されません。企業が運営する実世界の環境を表現するため、調査の対象には、関連する個別のモジュールやアプリケーションが含まれる可能性のある製品スイートまたはパッケージを提供するプロバイダーも含まれています。ソフトウェア プロバイダーが一般市場向けに製品のマーケティング、販売、開発を積極的に行っており、そのプロバイダーのウェブ サイトに当該製品が調査対象に含まれていることが反映されている場合、そのプロバイダーは自動的に調査対象として評価されます。

関連する製品を提供し、参加要件を満たしているすべてのソフトウェア プロバイダーが、無償で評価プロセスに参加するよう招待されました。

当社の選定基準を満たしているものの、購入者ガイドに完全に参加しているわけではないソフトウェア プロバイダーについては、公開されている情報のみに基づいて査定しました。こうした査定は分類と評価に大きな影響を与える可能性があるため、これらのプロバイダーを評価する際にはさらに精査することをお勧めします。



評価する製品

プロバイダー	製品名	バージョン	リリース 年/月
Andromeda Security	Andromeda Platform	2026 年リリース	2026 年 6 月
Apono	Cloud Privileged Access	2026 年リリース	2026 年 6 月
AWS	AWS Identity and Access Management (AWS サービス専用)	2026 年リリース	2026 年 7 月
Beyond Identity	Secure Access Platform	2.112.1	2026 年 6 月
BeyondTrust	BeyondTrust Pathfinder Platform (Insights、Entitle、Privileged Remote Access 製品)	2026 年リリース	2026 年 7 月
Broadcom	Symantec Privileged Access Manager	4.3.1	2026 年 5 月
CyberArk	Privileged Access Manager	15.2	2026 年 4 月
Delinea	Identity Lifecycle Management	2026 年リリース	2026 年 4 月
Entrust	Entrust Identity as a Service (IDaaS)	5.46.1	2026 年 6 月
Eviden	Evidian IAM (SaaS 版)	2026 年リリース	2026 年 4 月
Fortinet	FortiAuthenticator Cloud	26.2.a	2026 年 6 月
Google Cloud	Google Cloud Identity	2026 年リリース	2026 年 4 月
IBM	IBM Verify Workforce Identity	2026 年リリース	2026 年 7 月
Jisc	OpenAthens	2026 年リリース	2026 年 6 月
JumpCloud	JumpCloud Platform	2.147.7	2026 年 7 月
Keeper Security	KeeperPAM	2026 年リリース	2026 年 6 月
Keycloak	Keycloak IAM	26.6.4	2026 年 6 月
プロバイダー	製品名	バージョン	リリース 年/月



ManageEngine	Identity 360	2026 年リリース	2026 年 5 月
Microsoft	Entra ID	2026 年リリース	2026 年 6 月
Okta	Okta Platform	3.7	2026 年 6 月
One Identity	OneLogin Workforce Identity	2026 年リリース	2026 年 6 月
OpenText	OpenText Access Manager (NetIQ)	CE 26.2 (v5.1.3)	2026 年 6 月
Oracle	OCI Identity and Access Management	2026 年リリース	2026 年 7 月
Ping Identity	PingOne for Workforce	2026 年リリース	2026 年 7 月
RSA	SecurID	8.9	2026 年 1 月
SailPoint	Identity Security Cloud	2026 年リリース	2026 年 3 月
SAP	SAP Cloud Identity Services (Financial Management の一部)	2026 年第 2 四半期リリース	2026 年 6 月
SecureAuth	SecureAuth Workforce Identity Management	26.0.0	2026 年 6 月
Thales	SafeNet Trusted Access	2026 年リリース	2026 年 6 月
Twine Security	Twine Security IAM AI Digital Employee	2026 年リリース	2026 年 2 月



購入者ガイドの概要

ISG Research は、20 年以上にわたり、さまざまな業界、ビジネス アプリケーション、AI、IT に関する市場調査を行っています。ISG 購入者ガイド™ は、ビジネスおよび IT の要件についての理解を基に、ソフトウェア プロバイダーと製品についてバランスの取れた視点を提供することを目的としています。当社の調査手法と数十年にわたる経験が活かされた本購入者ガイドは、ソフト

“

ISG Research の購入者ガイドは、ビジネスおよび IT の要件についての理解を基に、ソフトウェア プロバイダーについてバランスの取れた視点を提供することを目的としています。

ウェア プロバイダーと製品を査定して選択するための効果的なツールとなります。本調査の結果は、ソフトウェア プロバイダーを査定し、具体的な製品エクスペリエンスやカスタマー エクスペリエンス要件への対応度を評価するための包括的な手段としてご利用いただけます。

この ISG 購入者ガイド™ は、継続的な市場および製品調査の集大成です。本ガイドでは、ソフトウェア プロバイダーのサービスが企業の要件をどの程度的確に満たしているかを査定しています。バリュー インデックス手法は、ソフトウェア プロバイダーの査定、選択、利用、関係維持に必要となるあらゆる基準を組み込むことにより、情報提供要請 (RFI) または提案要請 (RFP) プロセスをサポートするように構成されています。本 ISG 購入者ガイド™ は、機能およびプラットフォームの基準につい

て、カスタマー エクスペリエンスと製品エクスペリエンスを評価します。

当社の見解では、ソフトウェア プロバイダーと製品を効果的に評価するには、単に製品の機能や、プロバイダーのマーケティングおよび営業活動によって創出される可能性のある収益や顧客数を調べるだけでは十分ではありません。この調査の構造は、その見解を反映したものになっています。そのため、プロバイダーと長期にわたる良好な関係を築き、リソースと財務投資から最大の価値を得ることができます。当社は、ソフトウェアの選択を誤ると、総所有コストが増大して投資利益率が低下し、企業が潜在能力を発揮できなくなる可能性があるため、包括的な調査に基づくアプローチを取ることが重要であると考えています。また、このアプローチによってプロジェクトの策定と実施にかかる期間を短縮し、偏った意見や過去の経験に頼ることのリスクを取り除くことができます。

ISG Research では、既存および新規採用を考えているソフトウェア プロバイダーおよび製品の客観的なレビューは、エンタープライズ ソフトウェアの導入と実装に不可欠な戦略であると考えています。企業の査定には、実現できることは何で、自社に適しているものは何か、という 2 点からの分析を含める必要があります。企業の皆様には、入念な査定を実施することをお勧めします。そのために、プロバイダーの詳細な分析結果と評価手法が収められた、本 ISG 購入者ガイド™ をご提供しています。



ISG Research について

ISG Research は、市場動向と革新的テクノロジーを焦点とした定期的な調査、アドバイザリー、コンサルティング、経営者向けイベント サービスを提供しています。ISG Research は、企業が成長を加速して、さらなる価値を創出できるように有用なガイダンスを提供します。ISG Research のサブスクリプションについて詳しくは、research.isg-one.com にアクセスしてください。

ISG について

[ISG](https://www.isg-one.com) (Nasdaq:III) は、AI を中心としたテクノロジーの調査および顧問サービスを提供しているグローバル企業です。ISG は、世界のトップ 100 企業のうち 75 社を含む 900 社以上のクライアントが信頼しているパートナーであり、長年、テクノロジーおよびビジネス サービスにおいてリーダーの座を維持しています。現在は、AI を活用して卓越した業務と成長の加速を実現できるよう組織を支援する最前線に立っています。2006 年に設立された ISG は、独自の市場データと調査、プロバイダー エコシステムに関する深い知識とガバナンス、そして全世界で連携する 1,500 人の専門家の知識で知られており、クライアントがテクノロジーへの投資から最大の価値を引き出せるようお手伝いいたします。

著者について



Jeff Orr

IT およびテクノロジー担当リサーチ ディレクター

Jeff Orr は、ISG において CIO および IT 責任者向けに調査手法の調査とアドバイザリーを行うチームを統括し、IT のモダナイゼーションと変革を専門としています。Jeff Orr の担当分野は、AppDev/DevOps とビジネス プラットフォーム、クラウド コンピューティング、サイバーセキュリティ、インテリジェント オート

メーション、企業の全社的な IT 管理です。



David Menninger

ソフトウェア調査担当エグゼクティブ ディレクター兼ディスティングイッシュトアナリスト

David Menninger は、ソフトウェアの調査およびアドバイザリーを行うチーム全体を統括し、ISG の IT を支え、AI ソフトウェアに関する専門知識を提供しています。エンタープライズ ソフトウェア分野で 30 年以上の経験を持つ David

Menninger は、情報と分析結果の活用による全世界の企業のデジタル トランスフォーメーション推進においてリーダーシップを発揮しました。